

# 文化人シリーズ「野口英世」 1949. 11. 3

近江支部 酒田 義博

## — タイプI. —



局名左書



局名右書



ローラー印



機械印局名左書

## — タイプII. —



C欄Z型



C欄戦後型



機械印局名左書



文化人シリーズも、今年で発行70年を迎えます。

私の大好きな切手のひとつで、消印の過渡期でもあり、発行枚数も多く、色々な消印が楽しめるのも魅力のひとつです。

最近には計数番号付きも集め始め、興味が尽きません。今年の支部切手展には、出品したいと思っています。

タイプI. 貼り書状  
(機械印 局名右書標語印)

# 1円切手使用例としての物品要償書留便

永吉 秀夫



物品要償増書留便 (料金 61 円) 東京中央 S37(1962).5.6

2倍重量5種便20円+書留基本料40円+要償増料金1円(要償額1001~3000円)という料金構成の書留便で、2年半前に発行された文通「桑名」2枚+1円普通切手という貼りあわせです。重量増ではなくて要償額がもっと高額という可能性もありますが、たぶん上記のとおりでしょう。1円普通切手の役割をよく表しているカバーと言えます。

物品要償という表示はなされないのが普通で、第5種便の表示もありませんが、本品では両方ともきちんと押されています。封筒の裏の差出人を見たら、東京中央局切手普及課。さすがに模範的な扱いでした。通信販売品の記念切手を送った封筒ですね。